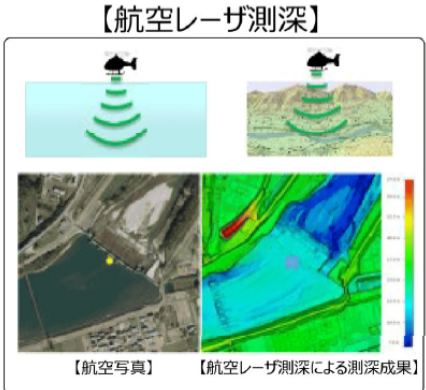
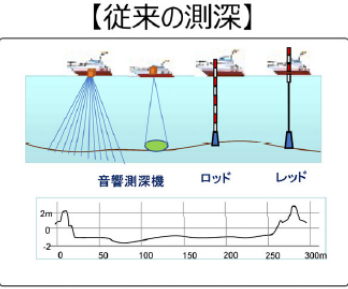


- 砂州の特性理解と適切な管理に向け、砂州計上をリアルタイムに把握し、データの蓄積を継続的に実施。
- 平面測量や深淺測量による形状把握に変わる。河口砂州の三次元モデル化に向けたグリーンレーザを用いたUAVによるレーザ測深を試験的に実施。
- 深度や波浪等がグリーンレーザ測深に与える影響やレベル3やレベル4による目視外飛行に向けた条件等について検討中。

従来の深淺測量成果では、線状の横断面図となるが、航空機に搭載したレーザ測深やマルチビーム測定により面的な成果が獲得可能



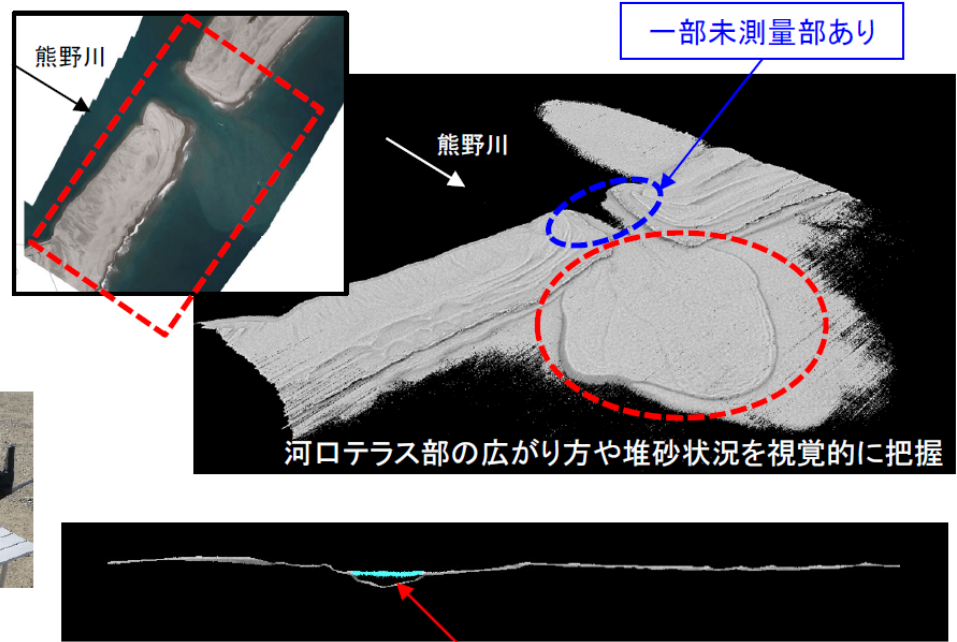
「航空レーザ測深機を用いた公共測量マニュアル(案)等について(国土地理院 北海道測量部)」より抜粋

航空機によるレーザ測深や船底に設置した音響測深機によるマルチビーム測深では、実施までの準備等に相当の労力がかかるため、水深部も測定が可能なグリーンレーザをUAVに搭載し、レーザ測深を実施



レーザ測深にかかる省力化を図ることで、コストの軽減が図れるほか、出水後等の砂州形状をリアルタイムに把握が可能

試験の結果、河口砂州の形状の他、水面下の河口テラス部における河床の状況まで把握可能。



・将来的に自律飛行による測量の実施結果から、効果的な砂州掘削箇所の選定が可能となる環境づくりを推進。